

【認知症対応型共同生活介護 用】

1. 第三者評価結果概要表

作成日：平成21年1月27日

【評価実施概要】

事業所番号	2873400853		
法人名	有限会社 ほおずき		
事業所名	グループホームCHIAKIほおずき姫路香寺		
所在地	(〒 679-2143) 兵庫県姫路市香寺町中仁野268-1		
	電話	079-232-9430	
評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区荻乃町2丁目2番14-703号		
訪問調査日	平成20年10月23日	評価確定日	平成21年1月27日

【情報提供票より】 [平成20年10月10日 事業所記入の同書面より要点を転記]

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年2月1日		
ユニット数	2ユニット (利用定員…計18人)		
職員数	12人	(常勤12人) (非常勤0人)	/ 常勤換算12人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	地上2階建て建物の 1階～2階部分		

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000円	その他の経費(月額)	23,000円	
敷金の有・無	有り (円) ・ 無し			
保証金の有・無 (入居一時金含む)	有り (300,000円) ・ 無し	(保証金有りの場合) 保証金償却の有・無	有り ・ 無し	
食材料費	朝食	150円	昼食	350円
	夕食	350円	おやつ	50円
	または、1日あたり		900円	

(4) 利用者の概要 (平成20年10月10日 現在)

利用者人数	計18名 … (男性6名) (女性12名)		
要介護1	3名	要介護2	9名
要介護3	6名	要介護4	0名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均84歳 … (最低71歳) (最高95歳)		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山本内科医院	医療法人社団ヨコテデンタルクリニック
---------	--------	--------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

播但線「香呂」駅から徒歩10分程度。静かな環境にあり、かつ、訪問にも便利。デイサービスも併設した建物は、フロア毎にくつろぎを感じる工夫がなされている。職員と利用者が互いに支え合い、また、近隣との関係づくりを強く意識し、利用者へ地域住民としての「家庭的な環境」を提供できるよう、さまざまなサービスがなされている。事業主体である「ほおずき」は複数のホームを運営し、サービス向上や職員の育成においては、各事業所での事例を活用し情報交換を行なうなど、これらの連携を活かした取り組みをしている。新人職員と施設長間で交換日記をするなど、ケアの技術・知識面だけでなく、「精神面」を重視した人材育成が行われている。より良いサービスを行なうためにも、職員間の絆とチームワーク(協働)を大切にしている。◎添付の資料写真も参照

【重点項目への取組状況】

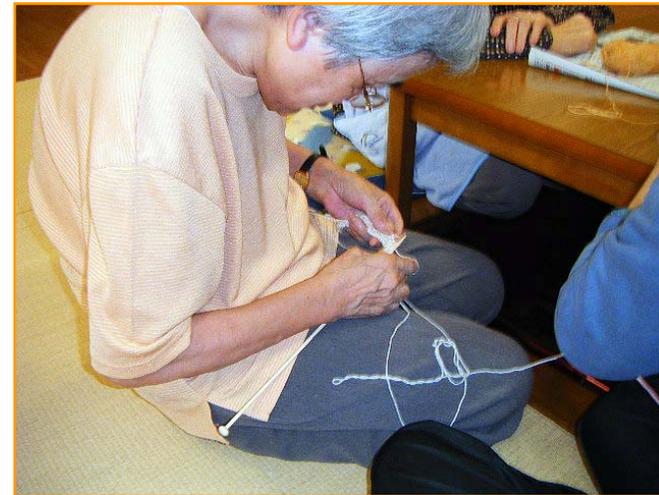
重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) 家族とスタッフの意見交換により、以前に比べお互いの理解が深くなった。運営推進会議の開催時期についても、利用者の家族が参加しやすくなるよう検討し、これも成果が感じられるようになってきた。苦情相談に関する窓口案内は、まだ不十分な面があり、今後の継続的な課題である。
	今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:第三者4) 職員全員で取組み、項目別に各スタッフとの擦り合わせをし、理解不足があればそれぞれに勉強会行なっている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:第三者4, 5, 6) 運営推進会議での討議により、家族の理解も深まってきた。複数のグループホームによる連絡協議会も順調に移動し、また、地域包括支援センターとの連携も落ち着いてきた。他のグループホームとの交流を職員研修にも活かしており、主任やリーダーの意欲も高まってきた。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 「家族との連絡」は、管理者が特に力を入れており、家族への手紙や職員からの報告などについて細やかな配慮がなされている。職員の異動など、文書や電話では事情を伝えにくい事柄については、家族の訪問時に紹介(職員による自己紹介)をする機会を設けている。要望・意見は、意見箱、ホームページでも受け付ける仕組みが出来ている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 自治会へ積極的に参加し、秋祭りや神社の催しなどでは地域交流を深め、ホームへの理解を得ている。地域行事には利用者が参加できる環境作りが進んでおり、その点でもホームに対する理解の高さを感じる。

- ◎食事を楽しむことのできる支援
 - ◎役割、楽しみごと、気晴らしの支援
- 食事の準備も利用者と協働で…



- ◎利用者と共に過ごし支えあう関係

訪問当日も、利用者が若い職員に編み物を教えていた



- ◎その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援
- 手洗いの支援



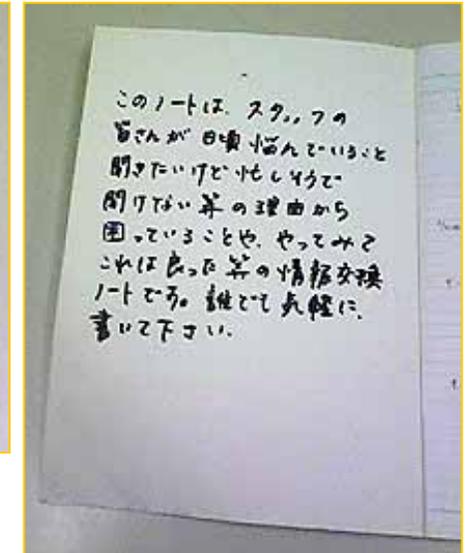
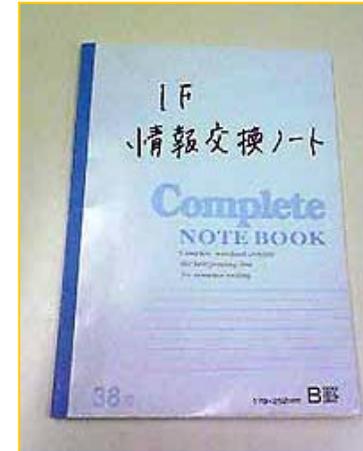


▲「今日の出勤者写真」を掲示
(家族からの要望に応えた工夫)



▲ 居心地の良い環境づくり
(職員室の前に、さりげなく椅子を配置)
ここから職員の様子が見え、気分が安らぐ

▼ 情報共有と、職員の育成・職員のストレス解消の工夫



▲ 入居者と職員の協働 (献立の相談)



▲ 入居者と職員の協働 (菜園作業)



▲ 入居者と職員の協働 (洗濯物干し)





▲ホーム玄関（鉢植えなどで飾り付け…）



▲庭（一部を菜園に…）

入居者の方々が育てるヒヤシンス ▼



▲近隣の子供たちが遊ぶ公園（日常の散歩コースに利用）



リビング（入居者の作品を並べ… 壁の言葉は「CHIAKI ほおずき」のテーマ…） ▲

2. 第三者評価結果票

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家族への説明を年に4回(懇親会を兼ねて)行っており、事業所独自のテーマ「チームワークを大切に、相手を思いやる」ということの実現に向けての取り組みがなされている。法人の理念を理解した上で、地域との係わりを大切にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新人の導入時にオリエンテーションを行い、年2~3回の研修でフォローしている。職員の質の向上に向けて、法人全体で計画を立て取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域活動の案内や新聞広告などを活用し、秋まつりや町内の民謡会への参加など交流を図っている。近くの神社で行われる農業関連行事にも参加し、公民館の習字教室などへの参加も心がけている。地域からの誘いが来るようになってきた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	中長期の取り組みとして、改善計画シートを活用し、具体的な取り組みがなされており、職員の意識にも反映され、徐々に成果が現れてきている。会議やミーティング等、機会がある度に第三者評価の意義を伝え、職員全体での取り組んでいる。	○	全項目を職員に相談し、評価項目において理解の不十分と思われるものについては、管理者が主導して勉強会を開催し、職員の意識向上に繋げている。

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括センターの職員をメンバーに加えたミニ研修会を開催している。そこで取り上げられているテーマを施設運営に反映している。	○	二つの自治会にかかわっていることもあり、民生委員や地域の関係者が多く参加されており、今後の運営の推進が期待できる。
6	9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	姫路所在のグループホームによる連絡会が定期的で開催されており、これに参加している。行政からの情報やサービスの向上に繋がる意見交換などが行われている。	○	管理者以外に、主任やリーダーなども研修参加の機会を多く確保できるように配慮されている。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回、利用者からの便りや写真を同封することで、家族との連絡を図っている。新人スタッフに対しては、利用者と家族との接点としての役割の重要性を実感してもらえることも育成研修に組み込んでいくことも望まれる。	○	職員の異動については、機会のあるごとに家族への報告をし、馴染みのある関係を早めに構築できるように配慮されている。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や法人のホームページに窓口を設けるなど、気軽に家族の意見を聴ける環境作りに努めている。	○	今後の取組みとして、課題や問題点の抽出をテーマ別に設け、意見の出し易い仕組みづくりを検討してもらいたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	夜勤者のローテーションの関係で1階と2階の行き来があるが、それ以外はなるべくスタッフを固定したいと考えている。新人職員が業務に携わることになる時期には、利用者が不安にならないよう特に配慮している。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<input type="radio"/> 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部の意向もあり、研修の実施など人材育成には積極的である。職員の役職や技量に応じたプログラムが作られ、外部研修の情報伝達も行われている。管理者も、職員個々への対応を強く心がけている。		
11	20	<input type="radio"/> 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実務研修などの外部研修、同業者との交流にも積極的である。「今後は運営推進会議などでの関わりから得られる事例や情報を、研修を通じて共有化していくこと」が課題であると考えている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<input type="radio"/> 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設されているデイサービスを活用し、なじみの関係構築に取り組んでおり、家族からのヒアリングや生活暦の把握に力を入れている。個別の対応にも力を入れており、人間関係のマッチングに配慮された取り組みを目指している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<input type="radio"/> 利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	編み物や料理、片付けなど、日常生活の中から、利用者個々にとって「できること」を見つけ、ケアに活かしている。家庭菜園では、種まきから収穫まで、皆で喜びを分かち合っている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個々が求めることに対応するよう心掛けケアがなされているが、「新たな気付き」をケアに活かすための職員間での情報共有について取り組むべき課題がある。	○	日常のコミュニケーションから情報を引き出し、これを記録し、職員間で取り組んでゆく仕組みを作ってもらいたい。
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスや家族へのヒアリングをベースに、介護計画に反映させる仕組みができています。職員間の情報共有に『情報交換ノート』が活用されている。ケース会議に利用者家族の積極的な出席を促す取り組みがされている		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	サービスの質の向上を目指し、センター方式を導入し、介護支援専門員のもと積極的に行なっている。定期的な見直しは勿論のこと、状況変化に即して計画の見直しがされている。家族と話し合いの日程調整の際も、家族の都合に合わせるよう配慮している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域住民との関わりが積極的に行われており、近隣の診療所や医療機関との連携も良好である。併設のデイサービスを活用し、敬老会や夏祭りにも参加し、カラオケ大会や大浴場の利用など、多機能性を意識した取り組みがなされている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間誰でも気軽に受診相談できる。以前からのかかりつけ医の受診支援も行っており、家族への協力や受診送迎への支援なども行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に向けた取組み指針を作成し、職員で方針を共有しているが、医師との連携など課題が多くあり、条件整備に力を入れている。重度化対応への負担やリスクの回避が可能な状況になれば、さらに検討を進めてゆく予定である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	『原点にたちかえろう』を、法人(CHIAKIほおずき)全体のテーマの1つに掲げており、ホームにおいても「人間の尊厳」に対する意識は高い。個人情報の取扱いについても、これらの記載のあるものは鍵の掛かるところに管理され、これに関する事業所の指針も見やすく掲示されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人暦の把握に力をいれ、一人ひとりのペース(生活のリズム)を大切に、柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立作りにはスタッフ全員が参加している。カロリー計算もしながら、旬の材料を取り入れた食事が提供されている。調理の下ごしらえや片付けなど、利用者にも参加してもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日々の状況や体調に応じた対応がされており、週に2~3回の入浴が確保されている。将来のADL低下への対応が今後の課題として認識されている。併設のデイサービスの浴室を活用して、利用者同士の交流を図っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	園芸や編み物、買い物、絵画など個人の要望に対応した支援がされており、アセスメントから楽しみごとや気晴らしの支援につなげるよう、努力している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くにスーパーもあり、買い物など散歩を兼ねた外出支援がされている。見守りの環境もできつつある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の行動パターンを全職員が把握し、予定外の外出にもスタッフが距離を置いた見守りにより対応している。夜間は防犯と危険防止のため施錠しているが、スタッフが1階で待機しているので、安全面は確保されている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な訓練に取り組んでおり、地域の自治会や運営推進会議の支援も期待できる。全職員が夜間や昼間の想定で避難訓練に参加できている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮した献立を作成し、食事や水分のチェック表にて一人ひとりの摂取状況を把握している。かかりつけ医とも連携し、大まかなカロリー計算もなされている。糖尿病の利用者にはカロリーオフのお菓子を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	敷地で菜園やガーデニングを行っており、くつろげる空間作りを心掛けている。1階の掘りごたつは集いの場になっており、利用者の好みの絵や写真もさりげなく飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冷暖房は個別に調整でき、居室は、(自身の住まいとして)火を使うことでなければ、自由にできる。以前から使用している家具や小物の持ち込みも制限をしないなど、利用者本位に暮らせるよう環境作りに努めている。		

※  は、重点項目。